

観劇する人々の服装色彩の実態調査

The Actual State of Clothing Colors of Theatergoers

小林茂雄

Kobayashi Shigeo

要 旨

観劇時における観客の服装色彩の実態を調査し、その選択に影響を与える要因を探ることを目的とした。2023年4月から9月にかけて、東京都および神奈川県内の10劇場で、現代演劇、ミュージカル、歌舞伎の観客の服装を分析した。その結果、劇場ごとに観客の服装色彩に特徴的な傾向が認められ、特にポスター・広告媒体の色相が服装選びに影響を及ぼしていることが示唆された。また、観客の服装は全体的に周辺の歩行者と比較して彩度と明度が低い傾向があり、この傾向はミュージカルや歌舞伎で特に顕著であった。課題として、サンプルサイズの拡大、服装選択の意図を直接的に把握するための調査、加えて季節、時間帯、年代などの影響を考慮した分析が挙げられる。

キーワード：観劇、服装色彩、劇場、演目種類、観察調査

1. 背景と目的

観劇とは、舞台上で演じられる戯曲などを鑑賞する行為である。日常とは異なる舞台装置、照明、音響などの特別なインテリア空間で新しい世界観に触れる。観劇することは、鑑賞行為そのものを楽しむ他に、劇場に訪れることが自体を特別な体験と捉える人も多い¹⁾。観劇は、文化芸術鑑賞の中でも特にストーリー性があり、普段とは異なる場所で物語を体験するため、何を身に着けるかという服装を考えることがあるかもしれない。

図1に示すように、日常生活において、私たちは様々な衣服を身にまとう。その色彩の選択は、色の好み、季節や気温、場所や状況、気分などに左右されると思われる。また、ライブやスポーツ観戦の場では、応援のためにチームカラーやメンバーカラーを身に着けたり、冠（成人）婚（婚礼）葬（葬儀）祭（年中行事）などのフォーマルな場面では、威厳や敬意を表して特定の色彩を選んだり避けたりすることが一般的である²⁾。これは民族や文化を問わず観察されている。一方で、観劇においてはこのような明確なルールが存在するわけではない。

それでは、観劇行為における服装の色彩選択はどのような要因に影響されるのだろうか。観劇は、劇場や演目ジャンルなどそれぞれ固有の特性を持ち、異なるストーリーが存在する。舞台を鑑賞する人々は、そのストーリーや環境に影響を受けて無意識に色彩を選択している可能性があると考えた。既往研究の服装の色彩調査は、街頭の歩行者を対象としたもの³⁾がほとんどで、服装の時代性や文化性に着目している。これまで観客の服装を対象とした調査・

Summary

This study aimed to investigate the clothing colors of theatergoers and the factors influencing their choices. Conducted from April to September 2023 across ten theaters in Tokyo and Kanagawa, covering modern theater, musicals, and kabuki, the research revealed distinctive trends in clothing colors specific to each theater, with some influence from promotional materials. The overall trend showed lower saturation and brightness in clothing colors, with particularly notable low saturation in musicals and kabuki. Future research should focus on expanding sample sizes, examining the intentions behind clothing choices, and considering the effects of seasonality and time of day.

Keywords: *theatregoing, clothing color, theatre, types of performances, observational research*

研究はみられない。

劇場は多くの人が集まり長時間過ごす場所であり、観客の服装は空間全体のインテリアを構成する要素の一つとなりえる。そのため、観客が纏う服装の色彩は、空間の印象や雰囲気に大きな影響を与える可能性がある。本研究では、明確なテーマカラーが設定されていない演劇を対象に、観客の服装が持つ色彩を調査し、その特徴や背景にある要因を探る。

2. 調査概要

複数の劇場へ実際に赴き、観劇をする人々の服装色彩についての実態を調査した。調査期間は2023年4月から9月

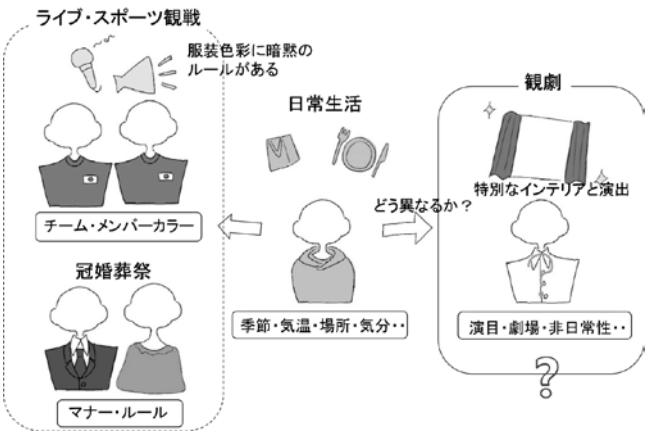


図1 服装の色彩選択に与えると想定される要因

まで、東京都および神奈川県にある計10劇場を対象とした。演目ジャンルとして、現代演劇^{注1)}、ミュージカル、歌舞伎（伝統演劇）の3種類を選定した。表1に対象とした劇場と演目の特徴を示し、図2に演目のポスターの例を示している。劇場は、立地と知名度、演目と公演タイミング、観客服装の調査しやすさから選定した。

調査方法は、劇場に入る直前または直後の観客の上半身（トップス）および下半身（ボトムス）の服装色彩を、色見本（日本塗料工業会 塗料用標準色色見本帳 2021年版）と一緒にカメラで撮影するものである。撮影対象は、撮影者から2m～6mの距離にいる観客であり、色見本と観客に照射される光の強度が異なるものに限定した。色彩が明確に特定できた観客のみを対象とし、観覧時に脱ぐと考えられるコートを着用している者は対象外とした。トップスおよびボトムスの基調色をそれぞれ一つ選定し、二色が同等面積で構成される場合は二色を選定した。調査風景を図3に示している。

観客の服装色彩と周辺地域を訪れる人々の服装色彩を比較するために、同日に劇場周辺道路を通過する歩行者の服装についても調査を行った。調査地点は、日比谷（劇場No.①②③に該当）、横浜（④）、銀座（⑤）、池袋（⑥）、新宿（⑦）、渋谷（⑧）、赤坂（⑨⑩）の7地点とした。観客の性別や年齢構成と大きく変わらないように対象者を選定した。観客と同様に、トップスおよびボトムスの服装色彩を色見本と一緒にカメラで撮影して測色した。表1の下に周辺環境と歩行者の特徴を記している。

3. 調査結果

3.1 色彩データの集計

調査した色彩データをHSVカラーモデル（色相（Hue）、彩度（Saturation）、明度（Value））で表記した。ただし場所ごとに照度や色温度が異なるため、画面に映し込んだ色見本のHSV値に基づいて色彩データを補正した。このカラー モデルでは、色相は0から360の値で表され、彩度と明度は0から100の値で表される。また、色相については、H値が300

以上360未満と0以上60未満を暖色、60以上120未満と240以上300未満を中間色、120以上240未満を寒色と分類した。

表2に、調査データを劇場ごとに集計した結果を示している。観客はどの劇場でも女性の比率が高かった。図4は歩行者の服装（トップス）の彩度と明度の分布を示し、図5は観客の彩度と明度の分布を示している。ポスターで用いられている主要な色彩も合わせて表記した。全体的な傾向として、ある劇場の観客が特定の色相や彩度、明度に集中するという傾向はみられなかったが、劇場ごとに特徴的な色彩の傾向が観察された。

そこで観客とその周辺の歩行者との服装色彩の差異（色相・彩度・明度）についてt検定を行った。さらに劇場間での観客の服装色彩の差異について一元配置分散分析を行った。色相は暖色・中間色・寒色の分類を連続尺度（それぞれ0, 1, 2）として扱った。表3に検定結果を示す。有意性がみられた結果を中心として、以下に得られた傾向をまとめた。

3.2 色相

観客のトップスの色相は、周辺の歩行者と比べて暖色または寒色に寄ることがあった。有意差があったのは、②帝



図2 ポスターの例

表1 調査対象の劇場と演目内容の特徴

No.	劇場名	演目ジャンル	演目	場所	収容人数	開場年(初代)	内装色彩		ポスター色彩	劇場の特徴
							壁	椅子		
①	シアタークリエ	ミ	ダーウィン・ヤング 悪の起源	日比谷	609	2007	黒	赤	特定色なし	宝塚劇場の対面にあり、1Fから地下が劇場。芸術座に代わって設立。
②	帝国劇場	ミ	Endless shock		1951	1966 (1911)	茶	赤	赤	国内最初の洋風劇場で、伝統と格式を持つ。1～3Fが劇場となっている。
③	東京宝塚劇場	ミ	カジノロワイアル～ 我が名はボンド～		2122	2001 (1934)	灰	赤	特定色なし	複合高層ビルの1～6Fが劇場。宝塚歌劇団専用劇場で華やがるデザイン。
④	KAAT 神奈川芸術劇場	ミ	クレイジー・フォー・ ユー	横浜	1187	2011	赤	赤	青、紫、 黄	駅から少し離れた場所にあり、劇場・スタジオ専用。NHK横浜放送会館と同居。
⑤	歌舞伎座	歌	團扇祭五月大歌舞伎	銀座	1964	2013 (1889)	茶	茶	緑	歌舞伎専用劇場。4度の建て替えで、外観は先代の日本建築的な意匠を継承。
⑥	東京芸術劇場[シアターウエスト]	演	スイングしなけりや意味がない	池袋	270	1990	黒	茶	青、赤	総合芸術文化施設内にある小ホール。1～2Fにはショップやレストランもある。
⑦	紀伊国屋ホール	演	ダブル	新宿	418	1964	茶	赤	特定色なし	小劇場演劇が中心。ビルの4Fにあり、同フロアに書店がある。
⑧	PARCO劇場[パルコ劇場]	演	新ハムレット	渋谷	636	2019 (1973)	茶	赤	黄、青	ファッションビルの渋谷パルコ8Fにあり、同フロアにギャラリーや映画館がある。
⑨	赤坂 RED/THEATER	演	沼の中の淑女たち	赤坂	173	2007	黒	白	青	ホテルの地下に位置した小劇場。狭い通りに面する。
⑩	TBS赤坂ACTシアター	演	ハリー・ポッターと呪いの子		1324	2008	茶	赤	特定色なし	複合施設赤坂サカス内に劇場がある。赤坂ミュージカル劇場などを経た名称。

演目ジャンル 「ミ」：ミュージカル 「歌」：歌舞伎 「演」：現代演劇

周辺環境の特徴 日比谷：ビジネス街である丸の内エリアが近接し、商業施設や映画館が多い。平日昼間は会社員、夕方以降や休日は観光客が増える。横浜：みなとみらい、中華街、山下公園が近接し、観光客が多い。銀座：高級ブランド店とデパートが連なり、買い物客と外国人観光客が多い。池袋：交通の中心地として多くの人が集まり、飲食や娯楽を楽しむ若者層が多い。新宿：観光客、買い物客、会社員が入り混じり多様性が高い。渋谷：繁華街に来る10～30代の若者が多く、ファッションや流行に关心の高い人々が集まる。赤坂：平日は会社員、夜間や休日は観光客が増えるが、全体的に落ち着いた雰囲気。



図3 調査風景

表2 調査結果

No.	劇場名	実測日 (2023年)	調査人数				観客の服装色彩(HSV値)										通行人の服装色彩(HSV値)							
			観客		通行人		色相(%)				彩度(平均)		明度(平均)		色相(%)				彩度(平均)		明度(平均)			
			男	女	男	女	トップス		ボトムス		トップス	ボトムス	トップス	ボトムス	トップス		ボトムス		トップス	ボトムス	トップス	ボトムス		
			暖色	寒色	無彩色	暖色	寒色	無彩色	暖色	寒色	無彩色	暖色	寒色	無彩色	暖色	寒色	無彩色	暖色	寒色	無彩色	暖色	寒色	無彩色	
①	シアタークリエ	6月18日	4	40			18	23	59	14	24	55	20.3	20.7	46.9	39.1								
②	帝国劇場	5月9日	0	44	5	45	20	14	66	10	12	78	12.3	15.7	65.1	43.3	10	32	58	6	26	58	29.8	40.6
③	東京宝塚劇場	5月9日	1	49			18	20	58	14	14	68	26.4	27.0	60.8	40.3								
④	KAAT神奈川芸術劇場	7月22日	8	42	9	41	16	24	59	12	36	46	27.7	28.0	62.4	42.1	16	24	56	8	26	52	33.1	34.8
⑤	歌舞伎座	5月20日	14	36	14	36	10	36	54	16	24	60	16.0	17.9	73.1	52.6	14	18	64	10	24	54	23.8	34.6
⑥	東京芸術劇場[シアターウエスト]	5月20日	23	27	17	33	8	31	56	6	28	62	24.2	27.9	60.3	40.4	22	22	56	8	30	50	30.3	27.6
⑦	紀伊國屋ホール	4月7日	0	44	14	36	18	32	50	13	13	74	22.7	31.5	56.5	28.2	8	30	54	2	28	56	24.2	29.5
⑧	PARCO劇場[パルコ劇場]	6月21日	10	40	18	32	12	12	72	28	18	48	32.1	37.9	53.0	38.4	10	32	54	2	20	70	26.1	37.7
⑨	赤坂RED/THEATER	9月29日	13	40			21	38	40	16	34	50	25.9	35.0	63.6	42.7	18	26	48	8	22	56	36.6	45.8
⑩	TBS赤坂ACTシアター	7月1日	15	35	17	33	12	20	62	14	24	53	17.1	26.6	65.8	38.8								

色相は中間色を表記していない 太枠：通行人に有意差が認められた項目

表3 服装色彩の有意差検定結果

No.	劇場	演目 ジャンル	観客と通行人とのt検定				劇場間での分散分析						
			トップス	ボトムス	トップス	ボトムス	トップス	ボトムス	トップス	ボトムス	トップス	ボトムス	
			色相	彩度	明度	色相	彩度	明度	色相	彩度	明度	色相	
①	シアタークリエ	ミ											
②	帝国劇場	ミ	▼		▼▼	▼▼							
③	東京宝塚劇場	ミ				▼▼							
④	KAAT神奈川芸術劇場	ミ											
⑤	歌舞伎座	歌				▼▼							△
⑥	東京芸術劇場[シアターウエスト]	演	△										▼
⑦	紀伊國屋ホール	演			▼								▼▼
⑧	PARCO劇場[パルコ劇場]	演		▼▼									
⑨	赤坂RED/THEATER	演	△		▼								
⑩	TBS赤坂ACTシアター	演		▼▼	▼▼								

「ミ」：ミュージカル、「歌」：歌舞伎、「舞」：現代演劇

△△, △：観客の値の方が大きい（色相は暖色より、彩度と明度は高い）

▼▼, ▼：観客の値の方が小さい（色相は暖色より、彩度と明度は低い）

△△, ▼▼, **: p<0.01 △, ▼, *: p<0.05

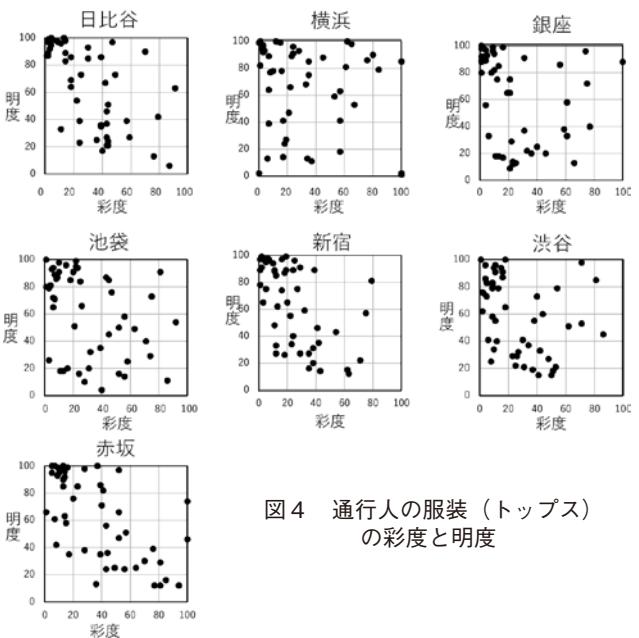


図4 通行人の服装（トップス）の彩度と明度

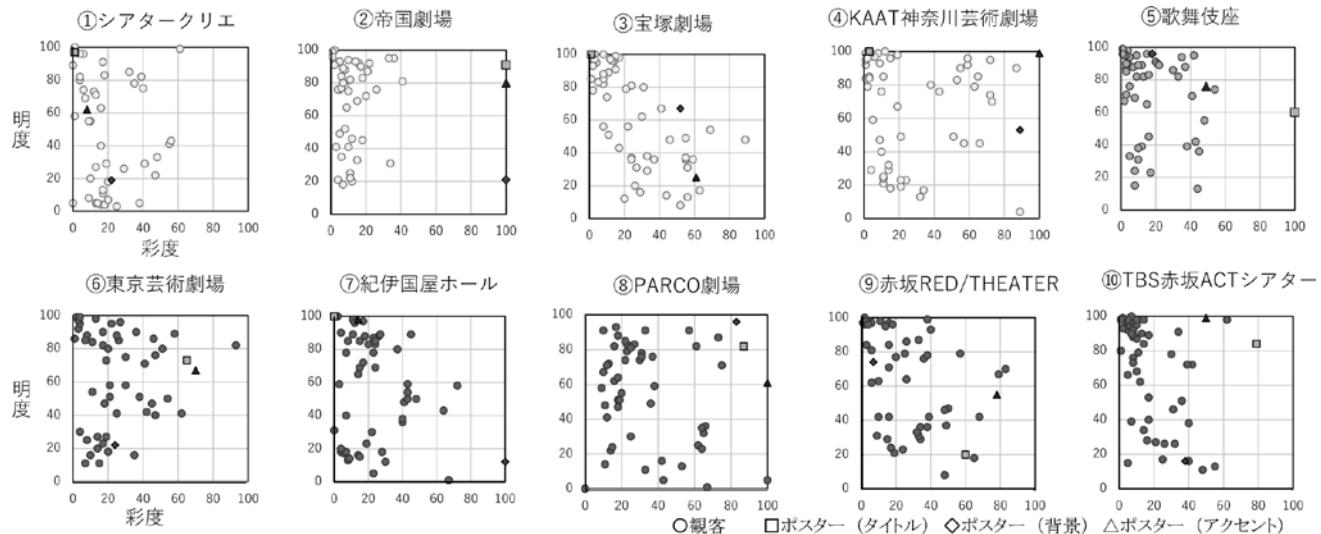


図5 観客の服装（トップス）の彩度と明度

国劇場（ミュージカル）では暖色傾向、⑥東京芸術劇場（現代演劇）と⑨赤坂RED/THEATER（現代演劇）では寒色傾向であった。今回は明確なテーマカラーを持つ演目を扱わなかったが、図2に示すように、ポスターやチラシなどで②帝国劇場は赤色、⑥東京芸術劇場と⑨赤坂RED/THEATERは青色が用いられている。のことから広報で使われている色彩と服装の色相に関連性があったのではないかと推測できる。②帝国劇場については主役の一人が赤の衣装を着用することが多いことも関係していると思われる。ただし、④KAAT神奈川芸術劇場はポスターに寒色系が基調色として用いられているが、観客にそのような傾向はみられず、常に強く作用しているわけではないようだ。

観客のボトムスの色相は、⑥東京芸術劇場を除いて、歩行者よりも暖色の比率が高い傾向がみられた。有意差がみられたのは、⑦紀伊國屋ホール（現代演劇）と⑧PARCO劇場（現代演劇）である。劇場に寄らず全体的に暖色傾向にあった理由は明確ではないものの、観劇という行為がもたらす楽しみや温かさの幸福感¹⁾が反映されたことや、劇場の客席に赤や茶の色彩が用いられていることなどが関係しているのではないかと推測できる。

色相は、劇場間で有意差はみられなかった。理由の一つは色相を連続量として表す難しさがある。その中でトップスの色相の偏りは上記の通りポスターなどの広報媒体との関係が考えられ、劇場の壁や椅子など内装色との関係は特定できなかった。

3.3 彩度

表2および図4・図5の比較（横軸が彩度）から、観客は歩行者と比べて、⑧PARCO劇場（場所：渋谷）を除いて、トップスもボトムスも彩度が低い（色味が薄い）傾向にあった。有意差が認められるのは、トップスでは②帝国劇場、⑨赤坂RED/THEATER、⑩TBS赤坂ACTシアター（現代演劇）、ボトムスでは①シアタークリエ（ミュージカル）、②帝国劇場、④KAAT神奈川芸術劇場（ミュージカル）、⑤歌舞伎座（歌舞伎）、⑩TBS赤坂ACTシアターである。観劇時は他の観客や舞台への視覚的な配慮から控えめな色調の服装を好む人が多いのではないかと考えられる。特にミュージカルと歌舞伎の演目（①～⑤）において彩度の低下が顕著である。

彩度はトップス、ボトムスともに、劇場間で有意な差異が認められた。②帝国劇場と⑤歌舞伎座と特に彩度が低い傾向があった。これは演目種類に寄るだけではなく、両者とも伝統や格式を持つ劇場であり、そうした劇場の特徴が彩度を抑えることに反映されたとも推測できる。歌舞伎座では観客の年齢層がやや高めであったことも影響している可能性がある。さらに、図5に示されるように、ミュージカルの（③④）と現代演劇（⑥～⑩）では、観客の彩度にばらつきがみられ、鮮やかな色彩を選ぶ人も存在している。

3.4 明度

明度については、全体的にはトップスもボトムスも、観客は歩行者に比べて明度が低い（色が黒い）傾向があった。有意差があったのは、トップスでは①シアタークリエ（場所：日比谷）で観客の明度が低くなり、ボトムスでは⑤歌舞伎座で明度が高く、⑥東京芸術劇場と⑦紀伊國屋ホールで低くなることである。⑤歌舞伎座はトップスも歩行者より明度が高かった。ここでは和服を着用する観客が一定数おり、上下が一続きになっていることと、特に春季（調査日5月20日）の和服は明るい色合いが多いためだと考えられる。明度はトップス、ボトムスとともに、劇場間で

有意な差異が認められた。

その他の劇場は明度が低くなる傾向があるが、これは落ち着いた服装を着用したいと考えたり、場のフォーマル性²⁾を考慮したり、観劇時に他の観客に対して視覚的に邪魔にならないように配慮したりしていることがあるのではないかと考えられる。

4.まとめ

本研究では、観劇に訪れる人々が着用する服装の色彩について調査し、色彩選択に影響を与える要因を推測した。実際の観劇客を対象とした調査の結果、観客のトップスの色相は劇場によって異なり、帝国劇場では暖色、東京芸術劇場と赤坂RED/THEATERでは寒色傾向がみられた。ボトムスでは暖色が多い傾向があった。トップスの色相については、ポスターやチラシを構成する主要な色彩と観客の色相に関連性があることが示唆された。

観客の服装は周辺の歩行者よりも彩度が低い傾向がみられた。控えめな色調の服装が好まれるのではないかと考えられる。特に帝国劇場と歌舞伎座では彩度が低い傾向があり、これは伝統や格式が影響している可能性がある。また、観客の服装の明度は全体的に低い傾向がみられた。歌舞伎座では特に春季における明るい和服の影響が考えられる。他の劇場では、落ち着いた服装や視覚的配慮が影響している可能性がある。

最後に、本研究の課題について述べる。本調査では特定の劇場と演目に限定し、調査期間も限られていた。今後はより多くの劇場や演目を含めることや、異なる季節や時間帯における服装色彩の変化を調査することが望まれる。また、本調査では観客の服装色彩に関する観察が主であり、なぜそのような色彩が選ばれるのか、その意図や動機については調査していない。実際に着用者がどのような意識で服装を選んだかを明らかにするため、アンケート調査やインタビューが必要となる。さらに、劇場の内装や家具、ポスターなどと色彩の関連性についても一部推測は行ったが、これを詳細に検証していきたい。

本調査は、東京都市大学建築学科卒論生の皆川瑠菜氏と共同で実施しました。記して謝意を表します。

注釈

- 注1) 現代演劇は、文献⁴⁾で記載されている下記の内容に沿って用いている。「ここでいう現代演劇とは、歌舞伎や能、狂言、文楽などの「伝統演劇」に対して、西洋の近代劇以降の演劇の流れをくみ、あるいはまた、その流れと日本独特の演劇表現が組み合わされて出来上がった演劇ジャンルを指す。」

参考文献

- 1) 文化庁：文化に関する世論調査報告書、内閣府大臣官房政府広報室、2017. 3
- 2) 山縣亮介、鷺津かの子、石原久代：服装のディテールとフォーマル性との関係、名古屋学芸大学メディア造形学部研究紀要、Vol.6, pp. 111-122, 2013. 3
- 3) 江森敏夫：銀座街頭における女性服装色実態調査 1993～2015、色彩研究、Vol.61(2), pp.1-27, 2014
- 4) 佐藤郁哉：現代演劇のフィールドワーク、東京大学出版会、1999

(2024年8月29日原稿受理、2025年1月5日採用決定)